

英 語 科

報告者：針谷 彩花

1 課 題

英語学習の土台として、意欲は欠かせない要素である。本校生徒の中には、これまでの英語学習経験から、英語学習に苦手意識や嫌悪感を抱いている生徒も少なくない。英語を読む・書く・聞く・話すというのは、一種の技術である。技術の習得には繰り返し練習することが必要であり、その継続のために意欲は欠かせない要素である。この意欲が不足していることが課題であると考えた。

2 目 標

英語科における読解力を「reading for gist(概要を読み取る力)」・「reading for specific information(特定の情報を読み取る力)」・「reading for details(詳細や行間を読み取る力)」と定義した。授業の展開に応じてアプローチを変え、それぞれの読解力を伸ばすことを目標とした。

3 具体的方策

授業や考査で、それぞれの読解力を伸ばす発問・出題をする。その際、授業では生徒が自分自身で正解にたどり着けるよう、教師が適切に導く。安易に正答を与えるのではなく、ヒントを与えるなどして、生徒の努力と成功を助ける。成功体験を積み重ねることによって、意欲の向上を狙う。

また、テキストの題材に興味・関心をもたせるようにした。関連する動画を見せたり、生徒個人の体験や考えと関連付けたりした。特に授業の序盤で、意識的に興味・関心を喚起するような Lead-in を行った。

4 結 果

読解の手助け(特に「意味順」による指導)をかなりした成果もあり、英文を読める(それぞれの読解力を伸ばす発問・出題に正確に答えられる)生徒が増えた。また、授業(英語)がわかるようになったからか、意欲的に授業に取り組む生徒も増えた。

5 次年度に向けての課題

生徒の間で、インプットに対する抵抗感が少なくなったように感じる。意欲と読解力の両方にアプローチした結果が、ある程度実った。今年度は「読解力向上」がテーマであり、この意味では、英語科としては成功したように思う。しかし、アウトプットまでできてこそ英語である。また、「そもそも読解力とは何かという定義が教科によって異なる」・「研究部員でない教員と「読解力を向上させる」という目標をうまく共有できなかった」ため、生徒に学校全体で足並みをそろえて「読解力向上」という目標を追求することも難しかった。次年度以降、研究テーマをどう設定するかが課題であると考えます。